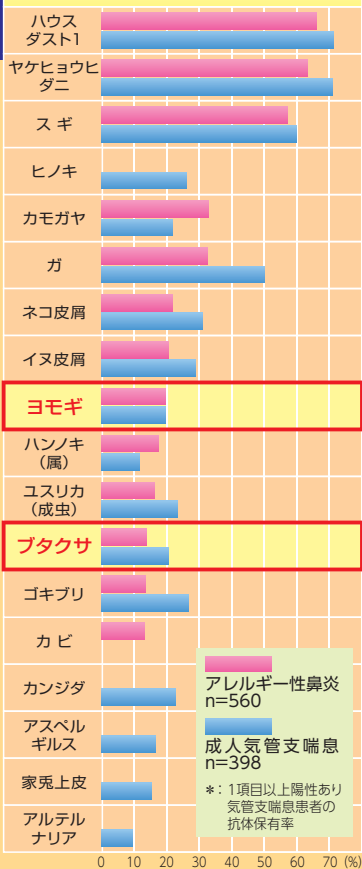


感作アレルゲン
を見落とさない
ために

臨床データに基づいたスクリーニングセット

スクリーニング (鼻炎喘息) をお勧めします!

成人気管支喘息^{*}、アレルギー性
鼻炎の特異的IgE抗体保有率^{1,2)}



臨床データに
基づいた
項目選定

特異的IgE抗体保有率の高い項目
季節性にも応じたアレルゲンで構成されています。

ブタクサ ヨモギ

秋の花粉症の代表的な
花粉です。

ガ ゴキブリ

秋に抗原量が増加する
昆虫です。

スクリーニング (鼻炎喘息)

セットコード
247

ダニ1	ブタクサ
カンジダ	ヨモギ
アルテルナリア	ガ
アスペルギルス	動物上皮マルチ
スギ	ハウスダスト1
ゴキブリ	ヒノキ
カモガヤ	IgE RIST

保険
点数

特異的IgE検査

1項目: 110点 13項目: 1,430点 (上限13項目)

マルチアレルゲンの構成

動物上皮

ネコ皮膚、イヌ皮膚、
モルモット上皮、ラット、マウス

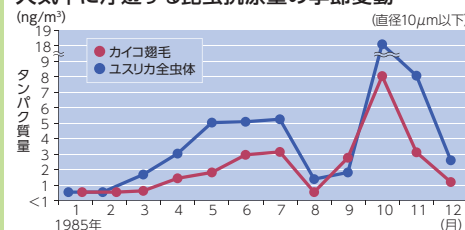
昆虫アレルゲンの
測定も重要です

ガ
ユスリカ
ゴキブリ

秋は抗原量が最も多くなる季節

昆虫の抗原量が増加する時期は昆虫アレルギー症
状の好発時期と一致します^{2,3)}。

大気中に浮遊する昆虫抗原量の季節変動⁴⁾



生活環境で感作される機会の多いアレルゲン

メイガ

食品害虫で食品から
発生します。

イガ

衣類や布団などをしまっておく
ローゼットや押入れなどにいます。

ゴキブリ

台所のシンク
の下などにい
ます。

これら昆虫の死骸や糞の粉砕が空気中に浮遊し、
それらを吸入することでアレルギー症状を引き起
こします³⁾。

単独感作が報告されるアレルゲン

昆虫は、気道アレルギーでの主要アレルゲンで、単
独感作も報告されています^{1,2)}。原因となる昆虫アレ
ルゲンにより掃除や回避するポイントが異なります。

原因アレルゲンを同定することは患者さんの指導に繋がります。

京浜メディカルグループ

株式会社 京浜予防医学研究所

株式会社 ジャパンメディカル

参考

1) アレルギー・免疫13(4), 548-554, 2006 2) 日耳鼻 105, 1181-1188, 2002
3) アレルギーの臨床 9(9), 645-648, 1989 4) J Allergy Clin Immunol 79(6), 857-866, 1987

Phadia

Setting the Standard

秋の花粉症の診断には ヨモギとブタクサ特異的IgEを測定しましょう

秋の代表的な花粉症原因

	北海道・東北	関東	東海	近畿	中国・九州
スギ	32.0	68.5	65.3	57.6	51.2
ヨモギ	17.3	12.1	21.3	26.6	21.6
ブタクサ	12.0	11.4	13.3	18.0	13.4
カモガヤ	24.0	26.8	42.7	36.7	35.4
ハンノキ(属)	14.7	14.8	9.3	23.0	21.6

地域別陽性花粉アレルゲン¹⁾より改変

- キク科のヨモギ、ブタクサは、アレルギー性鼻炎の主要なアレルゲンで¹⁾、秋に悪化する花粉症の代表的な原因です²⁾。
- 両花粉とも8月～10月に飛散します。
- また、花粉捕獲数調査では、キク科の花粉は全国的に増加傾向にあります²⁾。



ヨモギ
花粉飛散時期 8～10月頃

ブタクサ
花粉飛散時期 8～10月頃

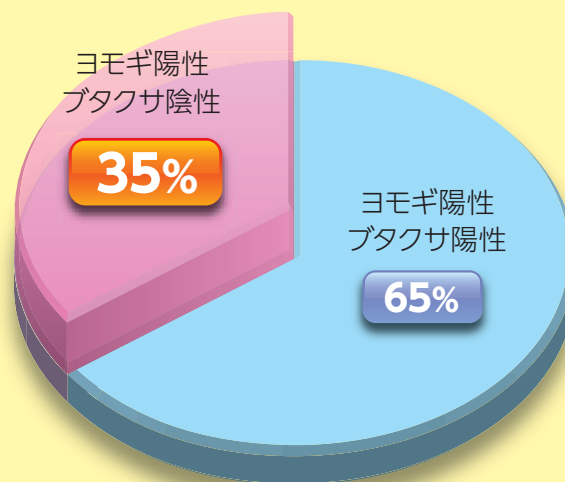
主な
生育場所

道路わき

公園

河川敷

同じキク科でも異なる抗原性



**ヨモギ特異的IgE陽性に対する
ブタクサ特異的IgE測定結果³⁾より改変**
(樹木、イネ科、雑草の各花粉に感作が疑われる患者127例中26例)
ヨモギとブタクサの抗原性は一部で共通しているものの、完全には一致していないため、秋の花粉症が疑われる場合は、両アレルゲンの測定が有用です³⁾。

- 参考
- 1) 鼻アレルギー診療ガイドライン2009
 - 2) アレルギー・免疫 13(9),1230-1236,2006
 - 3) アレルギーの臨床 9(2),139-145,1989
 - 4) 日耳鼻 112 38-41,2009
 - 5) アレルギー・免疫 17(6),1031-1038,2010

ヨモギ・ブタクサにもあるOAS

ヨモギ	ブタクサ
セロリ ニンジン など	メロン スイカ など
ハンノキ シラカンバ など	スギ ヒノキ
リンゴ モモ メロン など	カモガヤ オオアワガエリ
	メロン スイカ キウイ

花粉症に合併するOASで花粉との関連が報告されている主な食物⁵⁾

OAS (口腔アレルギー症候群) は花粉症に合併する疾患です。ヨモギ花粉症との合併頻度は40%と報告されています⁴⁾。OASの診断には花粉感作の確認が不可欠です。また花粉症の原因により注意する食物は異なります⁵⁾。

特異的IgE検査の意義

アレルギー性鼻炎の治療には、季節に応じた原因アレルゲンの特定による除去・回避が重要です。OASを合併している場合には、感作花粉の確認、症状を誘発する食物など複数のアレルゲンを特定することにより、食物の回避、原因花粉の飛散時期に注意するなど、患者さん一人ひとりに合わせた治療方針を立てることが出来ます。

監修

千葉大学大学院医学研究院
耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学
教授 岡本 美孝 先生



両面ポスターの
張替えをお願いします。

